（C）日刊スポーツ新聞社

「歴史的風致維持向上計画」福岡で2番目の認定

日刊スポーツ NIKKAN SPORTS
日刊スポーツ新聞社
福岡市博多区博多駅前2010 福岡朝日ビル
〒812-8559 ☎092(436)8711
©日刊スポーツ新聞社 2014
2014年（平成26年）
添田町・歴史的風致維持向上計画認定特別版

添田町が生まれ変わる

ニッカン 魅力あるまちづくり

坂井国土交通大臣政務官（左）から認定証を受け取る寺西町長（右）

世界の「ヒコサン」へ―。修験道で有名な英彦山がそびえる福岡・添田町が、さらに魅力的な町へ変貌中だ。6月下旬、国から認定された重要文化財の歴史的建造物の保存や、伝統文化の継承を町の活性化につなげる「歴史的風致維持向上計画」を軸に生まれ変わろうとしている。日本のシンボル、富士山が世界文化遺産に登録された最近の霊山ブームも追い風にして、地域力の向上を目指す。

霊山ブーム

福岡市から車で約1時間30分。添田町に近づくにつれ、新緑に彩られた美しい山々が視界に飛び込んでくる。時折、目にする町内のテングの飾り物が「テング伝説」も伝わる山伏による修験道で栄えた地を思わせる。5月下旬に英彦山の山開きが行われたばかり。登山を楽しむ観光客も絶えない人口約1万1000人の町だ。

富士山が世界文化遺産登録された。霊山ブームも手伝い、そんなのどかな添田町が、一躍世間の注目を集めることとなった。英彦山の世界遺産登録について、まちづくり課の担当者が「英彦山単体ではハードルが高いと思うが、周辺も含むと成り得る要素は多い。修験道は現実的に有りそうでない山の文化ですし、町の持つポテンシャルは高い」と話す。さらなる町のにぎわいづくりへまい進中だ。

08年施行の「歴史まちづくり法」による重要文化財の歴史的建造物の保存や、伝統文化の継承を町の活性化につなげる「添田町の一歴史的風致維持向上計画」が6月23日に国から認定された。「国からお墨付きをもらい、それだけ守る価値があるということ」（まちづくり課）。高いステータスがありながら、過疎化や高齢化で伝統家屋の保存維持が困難になっている現状や、英彦山にまつわる祭りや神楽の担い手の減少を食い止めるための申請だった。

国から10年間の資金援助

英彦山神宮神幸祭

町の活性化

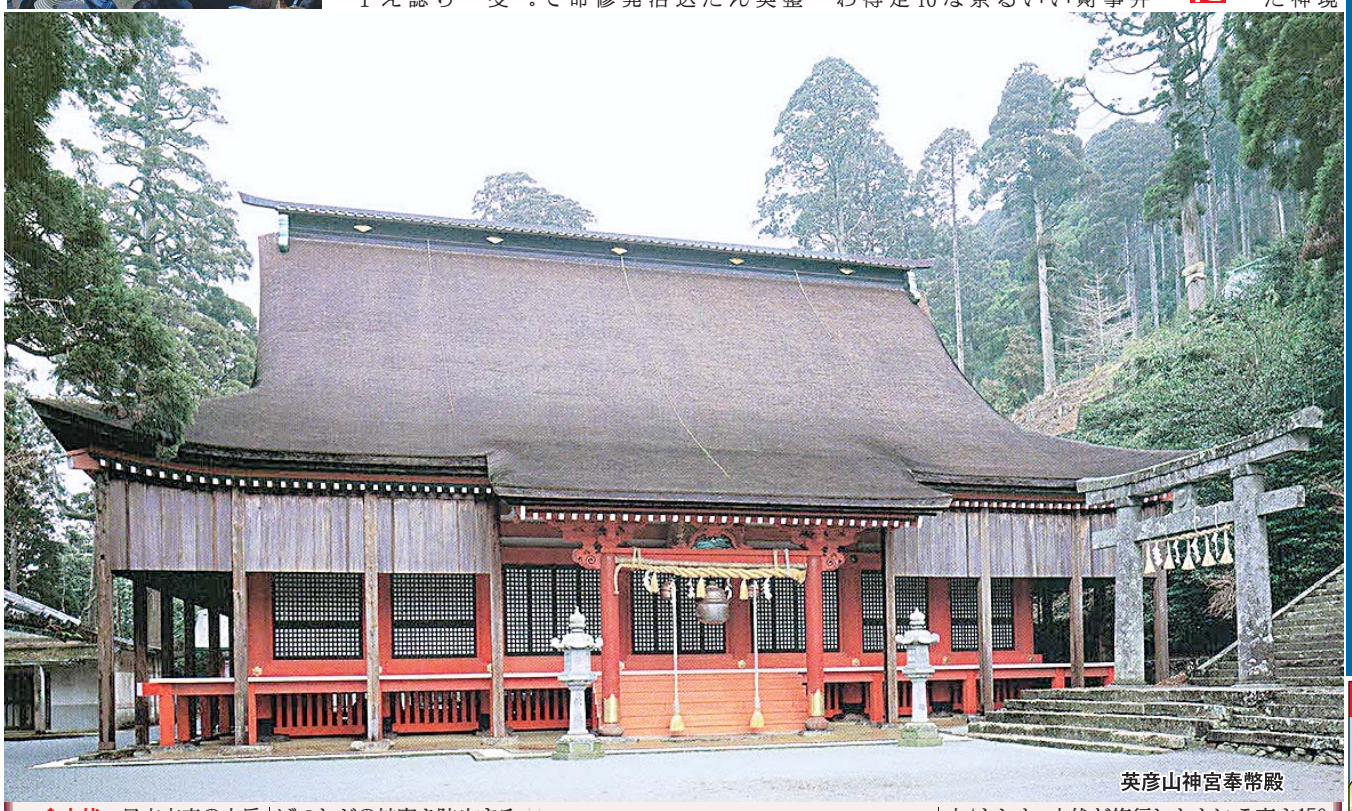
活性化の重点区域とするのは、柱松（はしらまつ）神事や御潮井（おしおい）採りなどの伝統行事が受け継がれ、国指定重要文化財の「英彦山神宮奉幣殿（ほうへいでん）」や、山伏が生活したという宿坊などの歴史建造物が残る「英彦山区域」など。金沢市、京都市、三重・亀山市、熊本・山鹿市などに次ぐ全国46番目、福岡では10年の太宰府市に次ぐ2番目の認定で、国から10年間の資金援助も得られることから、飛躍的なにぎわい創出につながるに違いない。

今後、同計画で参道や宿坊の整備、修復などが行われる予定の英彦山神宮宮司の高千穂秀敏さん（63）も「日本三大修験道だったころに生き返らせたい」と意気込む。4年前、衰退した修験道復活を唱え「鎮西英彦山同友会」を発足させ、息子を高野山や京都で修行させるなど英彦山復興に懸命だ。8月下旬には英彦山で初めてとなる薪（たきぎ）能も行われる。現在、添田町が国の史跡認定を受けるため調査中の英彦山。近年、外国人の登山客も増加しており「歴史的風致維持向上計画」の認定は情報発信への追い風といえる。世界の「ヒコサン」への第1歩が、ここから始まる。

護摩たき

人口約1万1000人

◆**添田町**　福岡県の東南に位置。1911年（明治44）4月1日の町制施行から11年には100周年を迎えた。かつて石炭産業で栄えた世帯数約5000、人口約1万1000人の町。国定公園の英彦山（標高1199.6㍍）の山麓に位置し面積の8割が山林で占められ、英彦山登山など観光客が年間100万人訪れる。清流を利用した稲作・花卉栽培などの農業も盛んで、特産品には、飛鳥時代に文武天皇が英彦山に奉納した鈴に由来する「英彦山がらがら」やてんぐ伝説をモチーフにした「陶面」があり、柚子（ゆず）こしょう発祥の地として、「柚乃香」なども人気を集めている。



英彦山神宮奉幣殿

地域の活性化を推進

――寺西明男町長

「添田町歴史的風致維持向上計画」は6月23日に国から認定を受けました。この計画の策定にあたっては、強い思いがあります。町長就任以来、添田町再生を掲げ町民の皆さんと施策を進めてきた中で、郷土・町の歴史と文化を生かし、誇りの持てる「まちづくり」が重要だと思ったからです。脈々と受け継がれてきた大切な歴史的価値のある建造物を今後も継承し、地域の特性や魅力を活用して、さらなる振興が図られ、地域の活性化を推進していきます。

添田町には総合計画があります。まちづくりを戦略的にとらえた「添田町歴史的風致維持向上計画」です。英彦山を中心に、古来より多くの歴史が息づき、文化そして日々の生活が連綿と繋がっています。認定後は、それぞれ具体的実施計画へと進んでいきます。人口減少社会の中、添田町をどうつくり上げていくか、大きく影響を与えるものだと認識しています。

この認定を大きな弾みとして、町民の皆さんとともに「悠久の歴史が生活の中で息づく添田町」をつくり上げていきたいと思っております。

どうかご理解とご支援をよろしくお願いします。

◆**山伏**　日本古来の山岳信仰に密教、道教、儒教が交ざりあって修験道が誕生した。その信者を山伏と言い、険しい山岳地帯を歩きながら断食や護摩行で心身を鍛えることで超自然力の体得を目指した。病気、干ばつなどの被害を防止するための祈願を行ったりもした。英彦山では江戸時代に最高3000人が修行を行っていたが、明治期の神仏分離令で衰退した。現在は山形・羽黒山や京都を拠点にした活動が盛ん。

「日本三大修験道場」の1つ

◆**英彦山**　山形・羽黒山、奈良・大峰山と並ぶ「日本三大修験道場」の霊山の1つ。英彦山に降臨し山の神とあがめられた日胤尊（ひこのみこと）の名にちなみ、「日子山」と呼ばれたとされる。だが819年に嵯峨天皇が「彦山」と改め、1729年に霊元法皇が「英彦山」とした。山伏が修行したという高さ150㍍の岩壁がそびえる「望雲台」や生活した宿舎「財蔵坊」（県指定有形民俗文化財）、中岳の頂上にある聖地「上宮」、法蓮上人が修行した「玉屋神社」など体感場所は多い。「添田町理蔵文化財収蔵庫・英彦山修験道館」には貴重な英彦山神宮所蔵の掛け軸、銅製の不動明王坐像などが展示されている。

英彦山修験道館

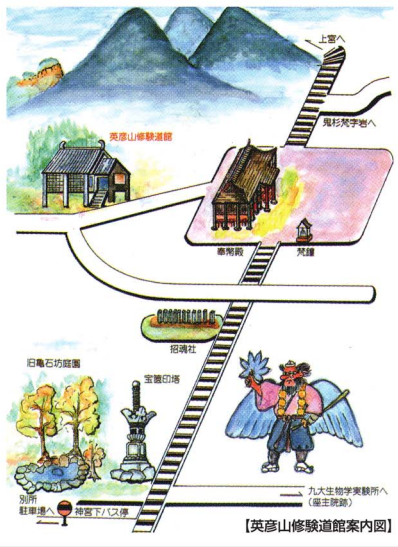
「英彦山修験道館」は、山そのものを崇拝する山岳信仰のもと、
霊力を得ようと英彦山の奥深くで修行に励み続けた
山伏たちの歴史を物語る充実の資料館。
館内は、山伏のほか修験道に関する貴重な歴史資料が
展示公開されているのはもちろんのこと、
遺跡から発掘された英彦山神宮の所蔵する
貴重な品々が目白押し！

彦山三所権現御正体（国指定重要文化財）　金銅製如来立像（国指定重要文化財）

英彦山修験道館

ご案内

■開館時間　午前10時～午後5時まで（入館は4時30分まで）
■休館日　毎週月曜日・1月～2月 ※臨時に休館することがあります。
■入館料　大人（高校生以上）　一般220円／団体150円
　小人（小・中学生）　一般110円／団体 70円
　※企画展の時は別途料金になります。
■交通　（JR）JR日田彦山線「彦山駅」下車。バス乗換
　（バス）町バス「英彦山神宮下」下車（徒歩15分）
　（スロープカー）「神駅」下車（徒歩5分）
　（車）スロープカー駐車場をご利用ください。
■所在地　〒824-0721　福岡県田川郡添田町大字英彦山
　TEL.0947-85-0378



【英彦山修験道館案内図】